Ⅱ.小倉城周辺エリアの現状と課題

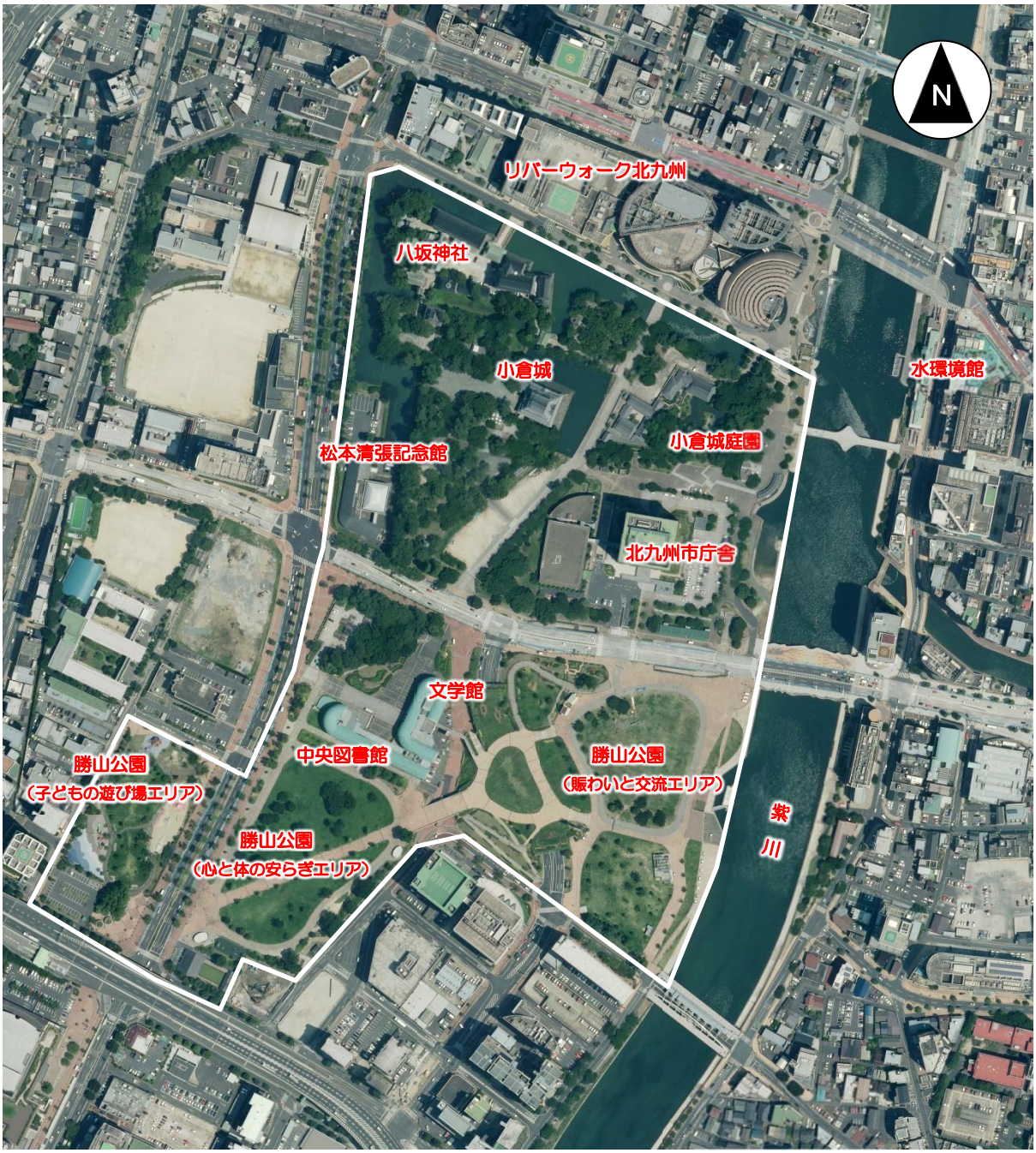
1.小倉城周辺エリアの現状

本計画の対象地は、小倉城を中心とした、小倉城庭園、中央図書館、文学館、松本清張記念館など、勝山公園と紫川の水と緑のなかに歴史・文化施設が集積した約 20ha のエリアです。

エリア北側には、商業施設を中心として、劇場、美術館などの文化施設、放送局、新聞社などの情報発信施設、大学キャンパスなど多様な機能が集約した複合商業施設リバーウォーク北九州もあり、このエリアのにぎわいの一端を担っています。

当地の持つ魅力には、歴史を今に伝える街並みや郷土の文化、その土壌により輩出されてきた多くの文化人の足跡、市民が集う水と緑の潤いの環境などがあります。

そして、それらの魅力が、エリア内にコンパクトに凝縮していることも特徴の一つとなっています。



1-1.小倉城周辺の施設などの概要

■小倉城

小倉城は、関ヶ原合戦の功労で小倉に入国した細川忠興によって、1602 年（慶長 7 年）から本格的に築城が開始されました。この天守閣は「唐造（からづく）りの天守」と呼ばれ、四階と五階の間にひさしがなく、五階が四階よりも大きくなる特徴をもつ全国唯一の珍しい城でした。

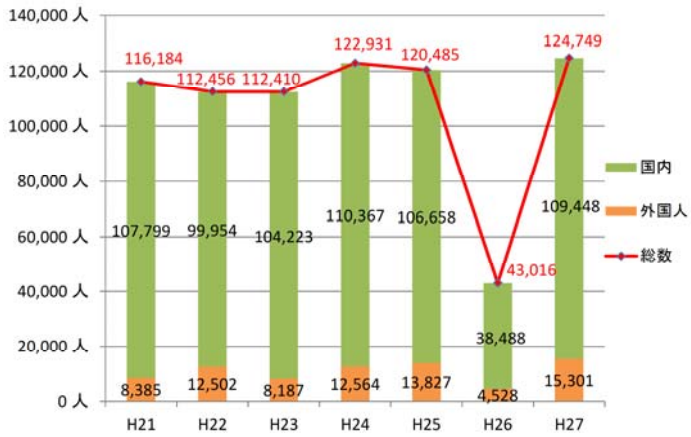
しかし、当時の天守閣は天保８年（1837 年）に城内から発火した火災によって全焼し、消失してしまいました。現在の天守閣は、昭和 34 年（1959 年）に市民の熱意によって再建されたものです。

天守閣内には、城下町・小倉の歴史や文化などの資料展示コーナー、江戸時代の体験コーナー、城下町を紹介する映像展示コーナーなどがあり、最上階は展望所として小倉の街を見渡すことができます。

唐造りの天守閣

■供用開始：昭和 34 年
■平成 25 年度入場者数：12.0 万人
（うち海外からの入場者数：1.3 万人）
※平成 26 年 4 月 1 日～12 月 13 日は耐震補強工事のため休館

小倉城入場者数の推移



※H23 年度の外国人の減少は東日本大震災の影響が考えられます。
※H27 年度の集計は H27 年4月 1 日～H28 年 1 月 20 日まで。

からくり人形による「島原の乱」出陣前夜の再現

小倉城の入場者数の推移を見てみると、近年では、年間 12 万人の入場のうち、1 割以上が外国人観光客となっています。その数は、年々増加傾向にあり、本市のインバウンド戦略において最も重要な施設の一つとなっています。

また、周辺から天守閣の写真撮影を行う観光客も多く見受けられ、小倉城の周辺には、入場者以外にも多くの来訪があると考えられます。

城内展示を眺める外国人団体客

小倉城のお堀

城のすぐ東を流れる紫川、西を流れる板櫃川、南を流れる寒竹川（現在の神嶽川）を天然の堀とし、寒竹川から北に向かって現在の砂津川を掘って東側の外堀としました。これにより、北には海を臨み、周囲 8 キロメートルにも及ぶ堀によって囲まれた総構えと呼ばれる城下町が完成しました。

寒竹川流域の三本松付近と板櫃川流域の平松地蔵橋付近の二カ所に水門を設け、いざという時に水門を閉じれば川の水が溢れて一面泥海となり、城攻めの敵軍は動きが取れなくなる設計となっていました。

小倉藩士屋敷絵図

■小倉城庭園

小倉城庭園は、小倉城の城主、小笠原氏の別邸であった下屋敷跡を復元した大名の庭園と、江戸時代の武家の書院を再現した体験型の文化施設です。

「思いやりの心」と「もてなしの心」を大切にする日本の伝統的な文化の一つである「小笠原流礼法」の歴史などを紹介し、礼法を中心にした伝統的な生活文化を後世に伝えていくことを目的とした日本で唯一のユニークな施設です。

伝統文化に関する企画展などの開催ができる展示室や、マナーに関するライブラリー、研修室などを備えています。

館内では、小笠原流礼法をはじめとして、茶道、華道、香道などの文化講座や、歴史講演会、伝統文化に関するイベント等を開催しています。また、伝統文化の継承を目的として子どもたちを対象とした伝統文化教室なども開催しています。

子ども伝統文化教室

庭園は、江戸時代を代表する庭園様式の一つである「池泉回遊式」庭園で池を巡りさまざまな景観が楽しめます。また池面が周囲よりかなり低い、「のぞき池」となっているのも特徴です。庭は「浮見の庭」とも呼ばれ、池に張り出す「懸造り」の広縁から池全体を見渡すことができます。

■供用開始：平成 10 年
■平成 26 年度入場者数：5.6 万人

新春茶会

日本庭園より懸造りの広縁を望む

小笠原流礼法

「小笠原家」と言えば、礼法の家として広く知られていますが、本来は弓馬の武術の家であり、礼法は家伝の弓馬術の基本動作をまとめて武家社会の作法としたものです。

小笠原流は、源頼朝公の糾方（弓馬術礼法）師範となった小笠原長清によって創始され、流鏑馬、奉射など故実を基に新しい武家儀式の策定を行いました。

小笠原流は長く将軍家のみの御留流として、小笠原家のみが継承していたため、巷間に流布することはありませんでした。

小笠原流の弓儀式
三三九手挟式（さんさんくてばさみしき）

■中央図書館

中央図書館は、資料の貸し出しや保存、レファレンスサービスを提供するとともに、市立図書館の中核施設として、市内の地区図書館、分館を統括する役目を担っています。

子どもの読書活動を推進するための「読み聞かせボランティア」や、学校での読書活動推進のリーダーとなることを目指した「子ども司書」などを養成しています。図書館の館内案内や、配架等を行う「図書館ボランティア」は、図書館業務の一部を担っています。

■供用開始：昭和 50 年 4 月
■平成 26 年度来館者数：約 35.3 万人
■蔵書数：約 48 万冊（平成 27 年 4 月 1 日現在）

中央図書館は、平成 27 年 4 月に開館 40 周年を迎えました。

建築家・磯崎新氏の設計によるヴォールト（アーチ状の屋根）を持つ 2 本のチューブを這わせたようなダイナミックに折れ曲がる斬新な形状の建築は、1970 年代の代表作とされています。

この美しく個性的な図書館は、映画「図書館戦争」のロケ地としても使用されました。

図書館内部から。連続した美しいアーチ

■文学館

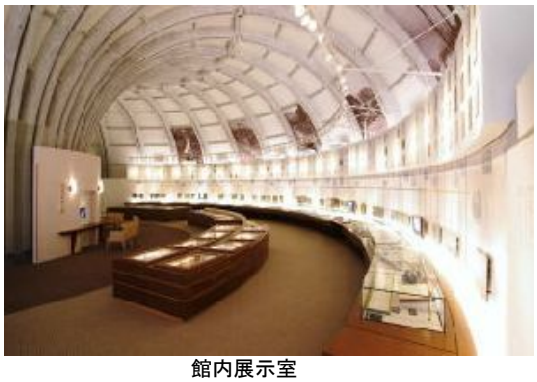
文学館は、北九州市と文学との深いかかわりに焦点を当てた施設として、中央図書館横に平成 18 年に創設されました

館内では、明治以降における北九州の文芸の歩みや、北九州市にゆかりのある文学者等、北九州が持つ豊かな文芸世界を、常設展示や企画展など文芸資料の展示により紹介しています。

また、作家などによる講演会や講座などを開催するなど、文芸団体、同人誌グループ、文芸ボランティアなどの情報交換、交流の場として活用されています。

その他、施設の役割として、市にゆかりのある文学者の文学資料等の収集や、調査研究、保管も担っています。

■供用開始：平成 18 年 11 月
■平成 26 年度入場者数：2.6 万人



館内展示室

北九州にゆかりのある文学者の紹介パネル